

令和元年6月27日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02878

研究課題名(和文)近代日本の地域総合開発における技術者の役割 田辺朔郎関係文書の分析を中心に

研究課題名(英文)The role of engineers in regional comprehensive development in modern Japan

研究代表者

秋元 せき (Akimoto, Seki)

同志社大学・人文科学研究所・嘱託研究員

研究者番号：20469208

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：近代日本における地域総合開発と都市基盤整備における技術者の役割の解明を目的として、「田辺朔郎関係文書」に含まれる日記・書簡を中心に調査・研究を行った。この史料群には、明治・大正期の各地の様々な都市基盤整備に関わった人物の書簡や記録類が含まれる。今回の調査では、田辺と姻戚関係にある北垣国道(京都府知事・北海道長官などをつとめた内務官僚)や榎本武揚などの未撮影の書簡等のデジタル撮影を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で調査対象とした「田辺朔郎関係文書」は、明治から大正・昭和期にかけての日本の土木史・都市計画史を実証的に分析する上での素材となる史料群であると同時に、文化財的価値も高い歴史資料である。こうした書翰・記録類などの一次史料には、刊行資料や公文書などには記されていない様々な内容が含まれ、近代日本の地域総合開発と都市基盤整備に関わる当事者の見解や、非公式の往復書簡にみられる人物像など、新たな知見が得られた。

研究成果の概要(英文)：For the purpose of elucidating the role of engineers in regional comprehensive development and urban infrastructure development in modern Japan, research and research was conducted focusing on diaries and letters contained in the document related to Sakuro Tanabe. This document group includes letters and records of persons involved in the development of various urban infrastructures in various places in the Meiji and Taisho eras. In this survey, we promoted digital photography of unphotographed letters such as Kitagaki Kunimichi (internal affairs bureaucrat who served as the governor of Kyoto and the Hokkaido minister) and Takeaki Enomoto who are in a relationship with Tanabe.

研究分野：日本近代史、都市史

キーワード：田辺朔郎

1. 研究開始当初の背景

田辺朔郎に関する研究は、これまでは、土木学・土木史の研究分野による研究が先行してきた。代表的なものとして、社団法人土木学会の土木史研究委員会「田辺家資料」調査小委員会の調査報告書『田辺家資料調査報告書』(社団法人土木学会、2000年10月)があげられる。同書は、土木学会が平成9年度から実施した調査の方法とその成果をまとめたもので、田辺朔郎関係の原資料を本格的に調査した詳細な記録である。同書には、本研究に着手するにあたって基礎となる情報が収録されており、学術的にも価値の高いものと思われる。この報告書によれば、「本調査ではこの田辺家資料の全目録を作成し電子情報化を行う」と、その調査の趣旨を述べている(前掲『田辺家資料調査報告書』2頁)。

しかし、ここでいわれている“全目録”とは、京都市水道局疏水記念館寄託目録(第一次調査結果データベース)および田辺家蔵調査による蔵内資料調査票による目録(第二次調査結果データベース)を結合した目録のことであり、近年発見分については調査対象にされていなかった。

2. 研究の目的

本研究は、「田辺朔郎関係文書」等の調査・分析を通して、近代日本における地域総合開発と都市基盤整備をめぐる技術者の役割を解明しようとするものである。田辺朔郎は、明治期から昭和期にかけて活躍した土木工学の第一人者で、近代日本における地域総合開発と都市基盤整備を担ったキーパーソンのひとりである。特に、琵琶湖疏水工事を完成させたことで知られ、京都では小学校の社会科副読本でも大きくとりあげられる人物である。

田辺朔郎は、文久元年(1861)に、幕臣で砲術家の父・田辺孫次郎の長男として江戸に生まれ、1883年(明治16)に工部大学校土木学科を卒業、同年京都府の御用掛となり、自身の卒業論文「琵琶湖疏水工事計画」をもとに、主任技術者として、この事業の設計・施工を担当し、1890年(明治23)に、琵琶湖疏水(第一)を完成させた。この琵琶湖疏水事業は、「地域総合開発事業の典型」として高く評価される近代土木事業である(『国史大辞典』吉川弘文館)。

田辺朔郎については、琵琶湖疏水に関する業績のみがクローズアップされることが多いが、これは一面に過ぎない。1890年には帝国大学工科大学教授に就任し、土木工学・応用力学講座を担当し、多くの土木学者・土木官僚の育成にあっている。また、北海道の鉄道建設にも関与したほか、政府の要請でシベリア鉄道の調査にも従事した。1900年(明治33)には京都帝国大学教授に就任、1916年(大正5)には同工科大学学長となった。この間、京都都市計画地方委員を歴任し、1929年(昭和4)には、土木学会会長に就任した。また、『明治工業史』の編纂を企画し、1917年(大正6)に編纂委員長を委嘱され、全10巻の刊行に関わった。1944年(昭和19)9月5日、84歳で死去した。

田辺朔郎は、著作も数多くのこしており、『工師必携』『とんねる』『蓮舟遺稿』などがある。この『蓮舟遺稿』は、叔父の田辺太一(号蓮舟)の遺稿をまとめて、出版されたものである。叔父の太一は、幕末・明治時代の外務官僚で、『幕末外交談』(東洋文庫)の著者としても知られ、晩年は維新史料編纂委員もつとめた。また、田辺朔郎の妻は、北垣国道(京都府知事・北海道長官などを歴任した内務官僚)の長女である。公務に関わる朔郎宛の北垣国道書翰も多数のこっている。

3. 研究の方法

本研究で対象とする「田辺朔郎関係文書」とは、近代日本を代表する技術者であり、琵琶湖疏水を設計して実現させた人物として知られる田辺朔郎の関係文書である。この未調査の史料群には、田辺太一(外交官・維新史料編纂委員)の関係資料が含まれており、田辺朔郎の人物像を研究するうえでも、近代史研究の材料としても、重要な史料群である。

田辺朔郎については、戦前に伝記(西川正治郎著『田辺朔郎博士六十年史』、山田忠三、1924年。田辺博士喜寿祝賀会編『田辺朔郎喜寿年譜』、田辺博士喜寿祝賀会、1937年)が刊行されている。しかしながら、これらは、田辺朔郎の偉業を顕彰する目的で編まれたものであり、学術的かつ実証的に事実を明らかにしたものではなかった。

琵琶湖疏水事業との関係から田辺朔郎をとりあげた文献(京都市編『京都の歴史』など)は少なくないが、田辺の事績は琵琶湖疏水だけでない。田辺朔郎という人物の全体像を実証的に明らかにした研究は、現在のところ、皆無である。本研究により、田辺朔郎の人物研究が大きく進むことは確実である。それだけでなく、田辺朔郎関係文書には、様々な内容の文書が豊富に含まれている。なかでも、注目すべきものとして、京都御所水道敷設や関門海峡トンネル、北海道鉄道・小樽築港など、各地のさまざまな電力・水道・鉄道敷設に関する書翰・記録類がある。こうした書翰・記録類からは、近代日本の地域総合開発と都市基盤整備に関わる当事者の見解や、非公式のやりとりなど、刊行資料や公文書などには記されていない様々な問題が明らかになる。

「田辺朔郎関係文書」は、幕臣の家であった田辺家に伝来した重要文書が含まれることも、本研究の調査の主眼のひとつである。同文書には、幕末・明治の外交官で、晩年には維新史料

編纂委員などをつとめた田辺太一の関係資料が含まれる。田辺朔郎は、青年時代に、叔父の田辺太一にフランス語を学んだことを後年に述べている。この点からも、朔郎の教養の背景には、太一の影響が少なくないと考えられる。また、朔郎の次男主計（かずえ）は、1912年に太一の養嗣子になっており、その点でも関係が強かった。太一の長女・龍子（花圃）は、1892年に三宅雪嶺（近代日本を代表するジャーナリスト）と結婚している。太一は晩年、この縁で三宅雪嶺宅に同居している。そのため、田辺朔郎関係文書には、田辺太一関係の書翰・記録のほか、三宅雪嶺（雄二郎）書翰・三宅龍子書翰が含まれる。

また、田辺朔郎に関する研究は、これまでは、土木学系の研究者による研究が先行してきたが、官僚や政治家・実業家・ジャーナリスト等との関係については研究対象とされてこなかった。史料の分析にあたっては、土木史・建築史・都市計画史などの成果をふまえつつ、歴史学的視点を重視して取り組み、関係文書を多面的な観点から調査・分析するものである。

4. 研究成果

近代日本における地域総合開発と都市基盤整備における技術者の役割を解明することを目的として、田辺朔郎関係文書の調査・研究を行った。田辺朔郎関係文書に含まれる日記・書簡を中心に、未撮影の書簡等のデジタル撮影を進めた。この史料群には、注目すべきものとして、京都御所水道敷設や関門海峡トンネル・北海道鉄道・小樽築港など、各地のさまざまな都市基盤整備に関わった人物の書簡や記録類がある。書翰・記録類などの一次史料からは、近代日本の地域総合開発と都市基盤整備に関わる当事者の見解や、非公式のやりとりなど、刊行資料や公文書などには記されていない様々な内容が含まれる。また、田辺朔郎は、『明治工業史』の編纂を企画し、1917年（大正6）に編纂委員長を委嘱され、全10巻の刊行に携わったほか、『工師必携』『とんねる』『蓮舟遺稿』など数多くの著作を残した。

田辺朔郎については、琵琶湖疏水事業との関係からその業績を論じられることが多いが、田辺の業績は琵琶湖疏水だけでない。この史料群には、様々な内容の文書が豊富に含まれている。

こうした、日本土木史における田辺朔郎の役割、日本近代における土木史・都市形成史についても視野に入れて研究を進める必要がある。田辺朔郎関係文書は、明治から大正・昭和期にかけての日本の土木史・都市計画史を実証的に分析する上での素材となる史料群であると同時に、文化財的価値も高い歴史資料である。このため、「保存」についても考慮しながら、研究者はもとより一般の利用者でも利用できる状態にするため、具体的には、資料の目録を作成するとともに、デジタルカメラで撮影し、今後の閲覧・複写にも対応することを視野に入れた資料整理を行った。

「田辺朔郎関係文書」を中心とする未調査の史料群の調査・分析は、近代日本における地域総合開発と都市基盤整備に関する実証的研究の基礎となるものと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

秋元 せき、明治初年の明石博高「日記」について、京都市歴史資料館紀要、査読有、27号、2017、47 - 77

〔学会発表〕(計7件)

秋元 せき、京都市歴史資料館歴史講座「志士・官僚と名望家たちの明治維新」、京都市歴史資料館、2018年12月

秋元 せき、アスニー京都学講座「創設期「京都市」の自治と歴史意識」、京都アスニー、2018年10月

秋元 せき、「伏見稻荷大社の明治維新 神仏分離令と愛染寺廃絶」、伏見稻荷大社、2018年6月

秋元 せき、京薬論集刊行会主催第15回文化講演会「近代京都実業界・政界の雄 浜岡光哲」、京都薬科大学、2017年11月

秋元 せき、朝日カルチャー京都講座「田辺朔郎と琵琶湖疏水」、於琵琶湖疏水記念館、2016年11月

秋元 せき、京都市歴史資料館歴史講座「古都・京都の復興 遷都の動揺から京都経済の再生まで」、京都市上京区役所大会議室、2015年6月

秋元 せき、京都検定講演会第10回「明治期の京都 京都の三大事業について」、京都商工会議所、2015年2月

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。